

◆ 同窓生便り ◆

10年ひと昔 *my precious memories*

医療法人よこやま 横山内科皮膚科医院

副院長

横山 将嘉



1993年に(故)市田文弘先生(新潟大学医学部名誉教授)の御推挙で第一内科に入局させてもらいました、横山と申します。もう20年も経ってしまいました。山岸昌一先生(久留米大学医学部教授)の薦めで第一研究室を専攻し、大学での基礎研究は、第二生化学の山本靖彦先生に師事しました。私のような劣等生にもわかりやすく丁寧に指導してくださいました。心より深謝申し上げます。また、臨床面では、能登裕先生(旧国立金沢病院)、臼田里香先生(富山県立中央病院)など多くの師に恵まれ、厳しく、時に優しく、指導していただきました。この20年を振り返ると本当に幸運な日々だったと感謝しております。模範とすべき多くの優秀な先生方と出会い、また米国コロンビア大学に留学する機会も得ることができました。渡米直前に鶴浦雅志先生(公立羽咋病院院長)からいただいた「気負わず、生活・文化を学んで来い。」という言葉に、当時、本当に救われた気持ちで、いまでも印象深く、大切な記憶として心に残っています。留学時代、ニューヨーク石川県人会でヤンキースの松井秀喜選手との食事会に参加しましたが、貴重な思い出となりました。まさか、国民栄誉賞受賞とは・・・。

現在は、義父とともに七尾の地で地域医療に従事しております。医院での診察や訪問診療の他、週の半分は、藤岡正彦名誉院長先生・吉村光弘院長先生の御指導の元、公立能登総合病院に勤務し、夜間当直も継続し、地域医療に必要な業態を網羅的にこなしております。研修医時代、白衣のポケットに糊と油性マジックを常備し、模造紙を広げ、土日にCCの準備をしていたあの頃の初心を忘れず、微力ながら地域医療に貢献していきたいと思っております。今後とも御指導・御鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。